



獨協医科大学病院だより
Dokkyo Medical University

夏号

令和7年(2025年)

No.60

Hospital News



獨協医科大学病院
病院長 麻生 好正

病院長あいさつ

令和4年(2022年)4月1日より当院の病院長に就任し、令和7年4月1日より2期目の病院長を拝命いたしました麻生好正です。平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

獨協医科大学の母体である獨協学園は、1881(明治14)年に創立された獨逸学協会をルーツとする140年余の歴史ある学園です。1973(昭和48)年4月に獨協医科大学が開学となり、翌年7月に獨協医科大学病院が開院しました。当院の理念として「医療倫理の徹底」「高度で良質な医療の提供」「医療の進歩への貢献」「連携医療の構築」「良質な医療人の育成」の5つを掲げ、当院は臨床・研究・教育の全ての面で発展してまいりました。2023年4月に本学は創立50周年を迎え、記念事業として、キャンパス再整備の一環である総合教育研究棟が2025年夏に完成予定です。また、2024年に、当院は開院50周年を迎えることができました。

当院は特定機能病院として高度先端医療の提供を維持し、高度急性期病院の役割を果たしております。特に移植医療に重点を置き、生体肝移植・脾腎同時移植・肺移植・骨髄移植・角膜移植など数多く実施しています。1,195床(許可病床)を有する北関東最大のメディカルセンターとして、県内の三次救急医療・高度救急医療の責務を果たしてまいりました。ドクターヘリの運航は2025年1月に15周年を迎え、10,000回以上の出動実績があり、北関東3県の救急医療を支えています。新型コロナウイルス感染症の対応(特に重症患者の治療)でも地域医療に貢献いたしました。災害拠点病院としても、災害派遣医療チームや災害派遣精神医療チームが、大地

震・水害の対応などの災害時に出勤して重要な役割を果たしています。

総合周産期母子医療センターは重症の妊婦や新生児に高度医療を提供しています。がんゲノム医療についても「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け積極的に取り組んでいます。ロボット支援手術は月50件施行し、さらに手術数を増加させ、近隣の医療機関の負託に応えています。

新設したリプロダクションセンター(不妊治療)および国内で初導入されたγナイフ新機種「Esprit」、増床したHCU(High Care Unit)とも順調に稼働しております。2025年1月より肥満症治療センターがスタートし、肥満外科手術および持続性GLP-1受容体作動薬治療に積極的に取り組んでいます。現在33の診療科、27のセンターを擁する充実した診療体制にあります。

広報活動の一環として、当院のスーパードクター達の紹介をDOKKYO MEDICAL SCOPEと題してYouTube配信しておりますので、ご視聴のうえ、チャンネル登録いただけますと幸いです。年3~4回のペースで、新たなYouTubeを配信しております。ご視聴いただけますと、まさに「獨協を識る」ことになります。

当院は北関東自動車道壬生インター出口からほぼ直結した好立地にあり、栃木県のみならず、北関東にお住いの患者さんにとって自動車で大変アクセスしやすい病院です。

今後も職員一丸となり、患者さんを中心とした、患者さんに寄り添う良質で高度かつ安全な医療を提供してまいります。すべての患者さん・ご家族に「獨協医科大学病院を選んでよかった」と思われる病院を目指して、日々全力を尽くしていく所存です。皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

CONTENTS

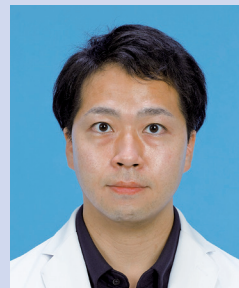
- ・病院長あいさつ
- ・病棟紹介(新館7階病棟)

- ・羊膜バンク開設のお知らせ
- ・病院へのお手紙に関するご回答

診療科紹介

羊膜バンク開設のお知らせ

獨協医科大学病院 眼科 講師 伊藤 栄



当院では、この度令和7(2025)年3月1日より「羊膜バンク」を開設致しました。

現在、当科では通常の治療法では治療困難な難治性の眼表面疾患(再発翼状片や角結膜腫瘍、難治性の角膜上皮障害、角結膜潰瘍、スティーブンス・ジョンソン症候群、化学熱傷、眼類天疱瘡など)に対して羊膜移植術を行っております。難治性眼表面疾患は重篤となることが多く、非常に高度な視力障害や失明を引き起こす疾患です。羊膜を用いない今までの手術では、再発を起こしたり、傷が治らなくなってしまうたり、高度な癒着を起こしたりすることが多く、治療成績が不良でした。

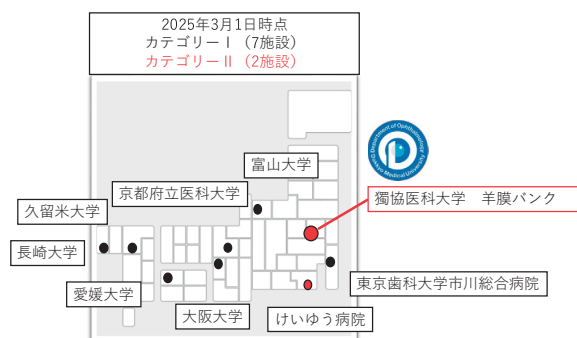
羊膜はお腹の中にある赤ちゃんを包んでいる胎盤の最内層に位置する、卵膜の一部です。羊膜上皮と基底膜、実質組織からなる半透明な膜組織(図1)で、赤ちゃん由来の組織であり、胎内での役割は母体からの胎盤組織への拒絶反応の抑制を含む胎児の保護と、羊水の分泌と考えられています。羊膜は厚さ約100～150 μ mあり、羊膜の基底膜は生体内で最も厚い基底膜と考えられ、進展性がよく強い膜です。角結膜の再生を助ける働きがあり、拒絶反応が起こりにくく、炎症を抑える働きがあります。したがって、このような難治性眼表面疾患に対して羊膜移植術を行うことで、炎症を抑え疾患の活動性を低下させることや、欠損した組織を補うことが可能となります。



(図1)当院の羊膜バンクで保管している羊膜
(元は半透明だが、保存液でピンク色に染まっています。)

羊膜移植術は日本では2003年に高度先進医療に認定され、2014年から保険医療として承認された手術です。当院では2020年から羊膜移植実施施設として羊膜移植術を行ってまいりました。年々手術件数も増加しており、現在は年間20件以上行っております。

当院では角結膜疾患に対して専門外来を設けて診療していますが、羊膜移植を行うことのできる医療施設は限られているのが現状です。栃木県内では唯一当院だけが行うことのできる施設となっております。成瀬教授、多田講師をはじめ、産科婦人科の先生方のご協力もあり、当院は今回、全国に9か所ある羊膜バンクのうちの一つに認定されました(図2)。



(図2)全国羊膜バンク所在地

これを機に、更に充実して角結膜疾患の治療に取り組みたいと思います。北関東、東北、北海道に羊膜バンクはなく、当院が最北東に位置しております。栃木県はもとより、埼玉県、群馬県、茨城県、福島県など隣接する地域からの患者さんを広く受け入れ、患者さんを中心とした高度な角結膜治療を提供してまいります。



獨協医科大学病院第1回羊膜バンク運営委員会委員

【相談窓口】 施設名：獨協医科大学病院 羊膜バンク
住所：〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880 電話：0282-87-2163

病棟紹介

新館 7 階病棟

新館 7 階病棟 師長 堀越 幸子



新館7階病棟は、2025年1月から眼科34床、総合診療科8床、睡眠医療センター2床の計44床の混合病棟となりました。

今回は眼科の紹介をさせていただきます。

眼科では主に白内障、緑内障、網膜剥離、眼内炎などの患者さんが入院しており、手術療法や点滴治療などが行われています。手術は1日10件前後行っており、ほとんどの手術は手術室で行っています。白内障の手術は、病棟内の手術室で行うこともあり、また患者さんの状況によっては、日帰りの手術も行っています。

新館7階病棟は眼科医師17名、看護師28名、看護補助者4名、夜間補助アシスタント1名で運営しています。看護師は3チームに分かれ、リーダーを中心に治療方針や必要な看護について情報共有を行い、患者さんと関わっています。主な看護業務は、入院当日又は翌日に行う手術前の説明や点眼などの処置、手術後の説明や退院後の注意事項について説明します。視力の低下により日常生活の援助が必要な方には、食事介助や服薬の介助など行います。退院前には生活指導や点眼指導、ご自分で点眼を行うことが難しい患者さんにはご家族へ点眼指導なども行っています。

ここで、スタッフの昼間のタイムスケジュールをご案内いたします。

8:00 業務開始

スタッフと治療方針や必要な看護について情報共有、スケジュール確認

8:30 最初の手術の患者さんを手術室に移送

9:00 退院の患者さんへ生活指導と点眼指導

入院中の担当患者さんへご挨拶、清潔ケアなど

10:00 入院患者さんの対応

13:00 昼食後の内服確認、検温など

14:00 記録、日常生活援助

16:00 次の勤務者へ、患者さんの申し送り

このスケジュールで一日経過しますが、その間にも手術の送り迎え、手術前後の看護、医師の診察介助など行います。

今年度は3名の新人看護師が新館7階病棟に配属になりました。毎日、看護業務を学び、患者さんへのケアを頑張っています。「先輩の看護師さんから眼の疾患や使用する薬、業務の流れなどを指導していただきながら、一日一日できることが増えていくことが嬉しくやりがいを感じています。手術に不安を感じたり緊張されている患者さんに、安心して入院生活を送っていただけるよう関わっていきたいです。」と言っています。今後の成長を見守りたいと思います。

日常生活を送る上で、視覚に頼る部分はとても大きく、視覚から得る情報は全体の90%と言われています。眼科の患者さんは視力低下や視野狭窄などの問題を抱え、目が見えにくいまで生活をするストレスはとても大きいと思われます。そんな患者さんの不安やストレスをできるだけ取り除き、安心して治療・検査に臨めるようスタッフ一同関わっていきたいと思います。



前列右：眼科 河越診療部長 左：堀越
後列：新館7階病棟スタッフ



～病院へのお手紙に関するご回答～

放射線科のTVが動物が動物をとらえて食べている映像が見てられない。もっと癒される映像にして欲しい。

(回答) ご意見ありがとうございます。また、大変不快な思いにさせてしまい申し訳ありませんでした。今後、不快な気持ちにさせることがないように、風景動画等の映像に切り替えさせて頂きます。

消化器内科を定期的に受診していますが、今年度より土曜日の診療がなくなり来院日と仕事との調整に苦慮しております。他の科のように交代制で土曜日の診療をお願いいたします。患者からのニーズは高いと思われます。

(回答) 厚生労働省が推進している医師の働き方改革について、当院として国の方針に則り、医師が健康に働き続けることのできる環境を整備していくことが、当院に通院していただく患者さんに対して提供させていただく医療の質や安全確保、また、高度な医療提供体制を維持していく上で重要であると考えております。消化器内科において土曜日の外来の一部を休診としたのもその一環であります。ご理解の程よろしくをお願いいたします。

エスカレーターの自動案内がうるさくて、受付の人の声かけがよく聞こえません。

(回答) 近年エスカレーターによる転倒・転落事故が多く発生しております。なお、転倒・転落事故は、重大な事故に繋がることから、事故防止対策の一環としてエスカレーターの危険を事前にお伝えすることとしております。安全性を確保する上の対応として、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。受付には大きな声でお声がけするよう指導いたします。

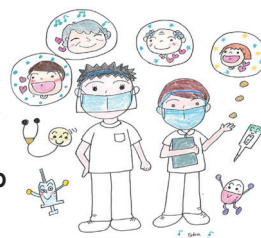
もう少しカートを増やしていただけたら足が痛かったり、腰が痛かったりなので助かるのですが。

(回答) ご意見ありがとうございます。カートは入院患者さんの荷物運搬用に設置したため、足腰の痛み等の介助には車椅子や手押し車をご利用いただければと思います。そちらの台数にも限りがあるため、不足している場合は病院職員にお声掛けください。ご理解とご協力をお願いいたします。

看護師・薬剤師募集

当院では、看護師・薬剤師を募集しております。採用試験等については、ホームページ採用情報の職員募集サイトをご覧ください。

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学病院 庶務課職員係
電話 0282-87-2038
E-mail shokuin-b@dokkyomed.ac.jp
(受付時間:月～土 8:30～17:00)*休日除く



病院機能評価認定
Japan Council for Quality Health Care

当広報誌は
当院ホームページより
ご覧いただけます。



獨協医科大学病院

Q 検索

<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>